

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2012

課題番号：20330142

研究課題名 (和文)

妊娠産褥期の母親のメンタルヘルスと幼児期の虐待傾向

研究課題名 (英文)

Association of Maternal Mental Health and Child Abuse Tendency

研究代表者

本城 秀次 (HONJO SHUJI)

名古屋大学・発達心理精神科学教育研究センター・教授

研究者番号：90181544

研究分野：児童精神医学、乳幼児精神医学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：妊娠産褥期、抑うつ、母親愛着、児童虐待、メンタルヘルス

1. 研究計画の概要

妊娠産褥期より、母親の抑うつ、母親-胎児愛着など母親のメンタルヘルスに関わる要因を前方視的に継続して測定し、子どもが2歳になったときの母親の子どもに対する虐待傾向との関係を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

われわれは、名古屋大学附属病院産科を受診した妊婦を対象に妊娠初中期より前方視的に調査を実施している。調査時点は妊娠初中期、妊娠後期、産褥期、産後1カ月、産後6カ月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳の時点である。質問紙の内容は、各調査時期で異なっているが、母親の抑うつ、母親の子どもに対する愛着等を測定する尺度は、主要な尺度として各時期の質問紙に含まれている。これまでの調査人数は、初回の調査では約800名となっているが、その後、継続して調査に参加した人の数は調査回数を重ねるごとに減少し、生後2年の時点で約150名、生後3年の時点で約45名といった人数となっている。そのため、長期的な追跡調査の結果を出すことは今のところ困難である。しかしながら比較的短期的な期間について、種々の要因間の関連を調べることは十分に可能なデータが集まっている。今後もさらに重点的にデータの収集を続けるが、それに加えて、今後はデータの分析に力を入れる。われわれは、既に妊娠初中期における妊婦の抑うつと母親-胎児愛着の関連について検討を加え、また、乳幼児の気質尺度 R-ITQ の因子構造についても検討しており、既に一定の業績を挙げている。今後は妊娠産褥期の母親のメンタルヘルスが、子どもが2歳になったときの母親の子どもに対する虐待傾向にどのような関

連が有るかを具体的に分析して行く。それによって、児童虐待に関連する母親の早期からの要因を明らかにすることを試みる。それによって、児童虐待に早期介入するための方策を検討する。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

妊産婦と子どもの関係性を巡る問題についてわれわれは研究会を組織し、役割を分担し調査活動を推進してきた。その限りにおいて調査資料はかなりの量、収集されてきた。それゆえ、研究の進捗状況は順調である。しかし、もう少し調査資料の収集を計画していたが、受診者数の減少も有り、期待した程のデータを集めることができなかった。また、もう少し集まったデータの分析を進める予定であったが、思った程には分析が進んでいない。その点が計画以上の達成度を示していない理由である。

4. 今後の研究の推進方策

基本的にはこれまでの資料の収集を継続しながら、早期の母親のメンタルヘルスと母子関係の問題について多様な視点から分析を行い、妊娠期からの母子関係の問題を明らかにして行く。それによって、早期からの母子介入の可能性を検討する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

① 高橋靖子、瀬地山葉矢、本城秀次(2010)

子どもの登校しぶりで来院した母親の内省機能アセスメントの試み—AAI と夫婦同席面接による検討—. 上越教育大学心理教育相談研究、9 ; 61-71. 査読無

② 濱田祥子、村瀬聡美、大高一則、金子一史、吉住隆弘、本城秀次 (2009) 高校生の自傷行為の特徴—行為ごとの経験率と自傷行為前後の感情に着目して—. 児童青年精神医学とその近接領域、50;504-515. 査読有

③ Hamada, S, Murase, S, Kaneko, H, Honjo, S. (2009) Association of nervous habits and stereotyped behaviors with anxiety and depression in Japanese primary school children. Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry, 50(Supplement); 14-22. 査読有

[学会発表] (計 24 件)

①山本明日香、栗本真希、渡辺美穂、金子一史、本城秀次 (2010) 母親のアレキシサイミア傾向が抑うつおよび愛着に及ぼす影響. 第 20 回日本乳幼児医学・心理学会プログラム・抄録集、p.8, 12 月 4 日、名古屋大学野依記念学術交流館.

②池田佳菜子、高緑笑花、和田浩平、金子一史、本城秀次 (2009) 乳児の気質および母親の抑うつと育児ストレスが乳児への愛着に及ぼす影響. 第 19 回日本乳幼児医学・心理学会プログラム・抄録集、p.11, 11 月 14 日、大正大学巣鴨校舎.

③ Oba, M., Murase, S., Okada, K., Kaneko, H., Honjo, S. (2008) Father-mother-infant dyad and triad interaction in Japanese families: The association between parent's relationships and their parenting. 11th World Congress of World Association for Infant Mental Health, p.42, August 1-5, Yokohama, Japan.

[図書] (計 10 件)

①金子一史、本城秀次 (2010) 脳とこころのプライマリケア 4 子どもの発達と行動、PP.344-350, シナジー.

②本城秀次編 (2009) よくわかる子どもの精神保健. 203p ミネルヴァ書房.

③本城秀次 (2009) 精神医学を知る—メンタルヘルス専門職のために—. pp.139-158, 東京大学出版会.